

実践報告

妊婦と0歳児を持つ母親の地域子育て情報ニーズの違いについての一考察

佐瀬 美恵子 Mieko Sase*

*江別市子育て支援センター Ebetsu City Child Raising Support Center

目的:近年は積極的に妊娠期からの継続した支援の重要性について示唆されている。地域子育て支援センター事業として、妊娠期の支援について模索していた。そこで、妊娠から子育てに至る育児過程における母親の子育て情報のニーズの違いを明らかにし、今後の支援に役立てる目的で調査を実施した。

方法:【対象者】子育て支援センター利用者、妊産婦 【調査方法】無記名自記式質問紙を配布

結果・考察:349件回収のうちテーマに関する回答66件(有効回答率18.9%)とした。調査により、子どもの年齢の違いにより母親の子育て情報のニーズの違いがあることが明らかになった。また子育て情報の中でも母親の不足感としては、子どもの病気や予防接種など医療に関する情報、地域における子育てサービス情報がありニーズの強さの違いについても明らかにできた。

結論:母親のニーズに合わせて情報を選択することは、子育て支援として重要であると考えられる。

キーワード:地域子育て支援センター、子育て情報

I. 緒言

少子化および核家族化といった社会の変化は、育児の中心的役割を担っている母親の孤立感や負担感に影響を及ぼしている。子育て支援は政策の重要な課題であり、断片的な支援体制の反省から、近年は積極的に妊娠期からの働きかけによる妊娠から子育てを見据え継続した支援の重要性について示唆されている^{1)~4)}。子育て支援センターは地域子育て支援拠点事業の一つであり、令和3年度7,856カ所存在する⁵⁾。妊娠から就学までの親子の健やかな成長を目的に①交流の場の提供・交流促進、②子育てに関する相談・援助、③子育て関連情報の提供、④子育て・子育て支援に関する講習会開催の事業活動を通して地域の子育て支援の活性化を担っている。

E市は大都市の通勤圏内に位置し、2019年の全国調査で0~14歳の転入数が8位となり子育て世帯数が増加傾向にある⁶⁾。市内には8か所の子育て支援センターが設置されており、保育士、助産師が子育て支援を行っている。近年、事業活動において、利用者の育児相談数は増加傾向にある。そのうち、0歳児の子どもを持つ母親の相談件数の割合が高いことは特長である⁷⁾。母親が訴える「赤ちゃんはずっと寝ていると思っていた」「おっぱいは楽である」といった画一的な情報による育児のイメージと、現実とのギャップが育児不安を助長させている要因の1つであると考えられた。子育て情報は子どもと接する経験の少ない母親にとって、知識を高め育児不安の軽減に影響を及ぼすと考えられる⁸⁾。近年は、インターネット上の子育て情報過多による

る母親の育児不安に及ぼす影響についても示唆されている⁹⁾。子育て情報があふれている社会において、子育て支援センターの保育士や助産師など専門職により子育て情報を提供することは必要である。特に妊婦に子育て情報を提供することは、育児経験の少ない母親にとって出産後の子育てに見通しをもつことにもつながるため必要な支援であると考えられる。しかし、センターでは妊婦の利用者は少なくニーズを理解することは難しいため支援については十分な検討がされていない。そのため、本研究は、妊婦と現在0歳児の母親の子育て情報のニーズの違いを明らかにすることで妊婦への子育て情報支援を検討する目的で調査を実施した。

II. 研究方法

1. 対象者

E市子育て支援センター（全8か所）利用者、市内唯一産婦人科を有する総合病院の通院中の妊婦に無記名自記筆質問紙を配布した。そのうち、本研究では市内在住の初妊婦（以下、妊婦）と初めて0歳児の育児経験をする母親（以下、0歳児の母親）を対象とした。

2. 調査内容

個人の属性として年齢、就労状況、居住期間、世帯構成、子どもの数について調査した。

子育て情報に関する調査項目は、各自治体で発行されている子育て情報誌の情報分類を基本とし、「場所別の子育て情報入手頻度」「子育て情報収集の頻度」「不足している子育て情報」「子育て情報収集の困難さ」について、「多い」5点「時々」4点「どちらと

もいえない」3点「少ない」2点「ない」1点の5段階のリッカートスケールで回答する尺度とした。また、「子育て情報収集の目的」については、10項目から「もっとも当てはまる」内容1つを選択とした。「現在の子育て情報の満足感」については、「はい」「いいえ」「よくわからない」の3段階で回答する尺度とした。また、2019年に1か所の支援センターでプレテストを実施している。

3. 調査期間 2020年7月26日～8月13日（2週間）

4. 分析方法

集計ソフトMicrosoft Excelを用いた。本研究では、妊婦と0歳児の母親の「場所別の子育て情報の入手頻度」「子育て情報の収集の頻度」「不足している子育て情報」「子育て情報収集困難」に関する項目を選択しクロス集計し分析検討した。t検定は有意水準を5%未満とした。「子育て情報収集の目的」「現在の子育ての満足感」については比率を算出した。

III. 倫理的配慮

自治体における倫理規定にもとづき、個人が特定される可能性がきわめて低いこと、回答しなくても不利益はないこと、プライバシーの遵守、データは研究以外に使用しないことを明記し、回答をもって同意とした。回収したデータは支援センターで保管し、研究結果の公表後5年を経過した時点で破棄することとした。研究結果の公表について、質問紙に市内支援センターへ掲示することを明示した。

IV. 結果

1. 対象者の背景

460枚配布し、回収した349件のうちテーマに関する回答の66件（有効回答率18.9%）を分析対象とした。年齢構成は、妊婦は10代1人（3%）、20代18人（45%）、30代20人（49%）、40代1人（3%）であった。0歳児の母親は、10代0人（0%）、20代10人（38%）、30代14人（54%）、40代2人（8%）であった。母親の職業は、妊婦は就業者13人（33%）、産休・育児休暇中7人（18%）、専業主婦20人（49%）であった。0歳児の母親は就業者3人（12%）、産休・育児休暇中17人（65%）、専業主婦6人（23%）であった。居住期間は、妊婦は1年未満6人（15%）1～3年未満8人（20%）、3～7年未満15人（38%）、7年以上11人（27%）であった。0歳児の母親は、1年未満8人（31%）1～3年未満11人（42%）、3～7年未満5人（19%）、7年以上

2人（8%）であった。世帯構成は、妊婦は夫婦のみ40人（100%）であった。0歳児の母親は、親と子ども2世帯は26人（100%）であった。子どもの人数は、0歳児を持つ母親は、1人26人（100%）であった。（表1）

2. 妊婦と0歳児の母親の子育てニーズの比較

1) 場所別の子育て情報の入手頻度（表2）

妊婦と0歳児の母親の子育て情報の入手頻度の平均値について *t* 検定を行った結果、「友人・近隣・職場の人・子育てサークルの仲間」($t(66)=-2.96, p<.05$)、「子育て支援センター職員・コーディネーター・あそびの広場スタッフ」($t(66)=-6.96, p<.05$)、「病院の医師・助産師・看護師・保健センター」($t(66)=-2.81, p<.05$)、「地域子育て情報誌」($t(66)=-2.51, p<.05$)については、妊婦に比べ0歳児の母親の平均値が高く、その差は有意であった。その他の入手先について有意な差はなかった。

		n = 40	n = 26
項目		妊婦	0歳児の母
年齢	10～19歳	1人 (3%)	0人 (0%)
	20～29歳	18人 (45%)	10人 (38%)
	30～39歳	20人 (49%)	14人 (54%)
	40～49歳	1人 (3%)	2人 (8%)
職業	就業者	13人 (33%)	3人 (12%)
	産休・育児休暇中	7人 (18%)	17人 (65%)
	専業主婦	20人 (49%)	6人 (23%)
居住期間	1年未満	6人 (15%)	8人 (31%)
	1～3年未満	8人 (20%)	11人 (42%)
	3～7年未満	15人 (38%)	5人 (19%)
	7年以上	11人 (27%)	2人 (8%)
世帯構成	親と子ども	0人 (0%)	26人 (100%)
	3世帯以上	0人 (0%)	0人 (0%)
	夫婦のみ	40人 (100%)	0人 (0%)
子どもの人数	1人	—	26人 (100%)

表2 場所別の子育て情報の入手頻度

子育て情報の入手場所	n = 40		n = 26	** p < 0.05
	妊婦	0歳児の母親	t	
親・兄弟・親族	3.98	4.23	-0.94	
友人・近隣・職場の人・子育てサークルの仲間	3.13	4.12	-2.96 **	
幼稚園・保育園・認定こども園の職員	1.5	2.04	-1.51	
子育て支援センター職員・コーディネーター・あそびの広場スタッフ	1.5	3.54	-6.96 **	
病院の医師・助産師・看護師、保健センター	2.53	3.38	-2.81 **	
育児雑誌・育児本	2.93	3.27	-0.93	
地域子育て情報誌	1.88	2.58	-2.51 **	
テレビ・ラジオ・新聞・広告	2.23	2.73	-1.63	
インターネット・スマホ・アプリ	4.38	4.46	-0.42	

表3 子育て情報収集の頻度

子育て情報の内容	n = 40		n = 26	** p < 0.05
	妊婦	0歳児の母親	t	
子どもの病気・病院情報・予防接種	2.9	3.92	-3.6 **	
子どもの発達・成長	3.22	4.35	-4.42 **	
子どもの預かり（一時保育・病児保育など）	2.35	2.58	-0.84	
保育園・幼稚園・認定こども園	2.75	3.42	-2.42 **	
地域子育て支援サービス（子育て支援センター・子育てサークル他）	2.25	3.69	-6.06 **	
子ども連れの間（公園・イベント・レストラン 他）	2.62	3.54	-3.42 **	
子どもの生活（排泄・睡眠・歯磨き・食事・母乳・ミルク・しつけ 他）	3.37	4.38	-3.96 **	
子どもの教育・習い事（英語・水泳・リトミック他）	2.25	2.31	-0.21	
お母さん・お父さんの健康（身体の不調・メンタル・妊娠他）	3.42	3.04	1.29	
復職活動	2.22	2.46	-0.83	

2) 子育て情報収集の頻度（表3）

妊婦と0歳児の母親の子育て情報の収集頻度の平均値について t 検定を行った結果、「子どもの病気・病院情報・予防接種」($t(66)=-3.6, p<.05$)、「子どもの発達・成長」($t(66)=-4.42, p<.05$)、「保育園・幼稚園・認定こども園」($t(66)=-2.42, p<.05$)「地域子育て支援サービス（子育て支援セン

ター・子育てサークル他」($t(66)=-6.06, p<.05$)、「子ども連れの間（公園・イベント・レストラン他）」($t(66)=-3.42, p<.05$)、「子どもの生活（排泄・睡眠・歯磨き・食事・母乳・ミルク・しつけ 他）」($t(66)=-3.96, p<.05$)、については、妊婦に比べ0歳児の母親の平均値が高く、その差は有意であった。その他の頻度については有

表4 子育て情報収集の目的

子育て情報を収集する目的	n = 40		n = 26
	妊婦	0歳児の母親	
悩みを解決する	17人 (43%)	11人 (42%)	
子育ての選択肢の幅を広げる	10人 (25%)	6人 (23%)	
より良い育児方法を知る	6人 (15%)	4人 (15%)	
自分の育児方法を確認し安心する	3人 (7%)	3人 (12%)	
楽しみ・趣味	3人 (7%)	0人 (0%)	
子どもの成長を確認する	1人 (3%)	2人 (8%)	
困っている人に教える	0人 (0%)	0人 (0%)	
ママ友との交流の機会にする	0人 (0%)	0人 (0%)	
社会貢献の機会	0人 (0%)	0人 (0%)	
地域の子育て環境の理解を深める	0人 (0%)	0人 (0%)	

意な差はなかった。

表5 現在の子育て情報の満足感

満足	n = 40	
	妊婦	0歳児の母
はい	15人 (38%)	16人 (62%)
いいえ	3人 (7%)	3人 (11%)
よくわからない	22人 (55%)	7人 (27%)

3) 子育て情報収集の目的 (表4)

子育て情報収集の目的として「悩みを解決する」については、妊婦17人(43%)、0歳児の母親11人(42%)と最も割合が高かった。次に、「子育ての選択肢の幅を広げる」については、妊婦10人(25%)、0歳児の母親6人(23%)、「より良い育児方法を知る」については、妊婦6人(15%)、0歳児の母親4人(15%)と割合が高かった。

4) 現在の子育て情報の満足度 (表5)

現在の子育て情報の満足度の割合について

て、妊婦は「はい」15人(38%)、「いいえ」3人(7%)、「よくわからない」22人(55%)、0歳児の母親は「はい」16人(62%)、「いいえ」3人(11%)、「よくわからない」7人(27%)となった。

更に、現在の子育て情報の満足度について、「いいえ」「よくわからない」の選択者に以下5)、6)の設問を行った。

5) 不足していると感じる子育て情報 (表6)

妊婦と0歳児の母親が、不足と感じている子育て情報の平均値についてt検定を行った結果、「子どもの病気・病院情報・予防接種」($t(35)=-2.64, p<.05$)、「地域子育て支援サービス(子育て支援センター・子育てサークル他)」($t(35)=-2.62, p<.05$)、「子ども

表6 不足していると感じる子育て情報

子育て情報の内容	n = 25		n = 10		** p < 0.05
	妊婦	0歳児の母親	t		
子どもの病気・病院情報・予防接種	2.88	3.7	-2.64	**	
子どもの発達・成長	3.22	3.3	0.06		
子どもの預かり(一時保育・病児保育など)	2.92	3.1	-0.48		
保育園・幼稚園・認定こども園	2.92	3.4	-1.19		
地域子育て支援サービス(子育て支援センター・子育てサークル他)	2.44	3.2	-2.62	**	
子ども連れの間(公園・イベント・レストラン 他)	2.84	3.1	-0.75		
子どもの生活(排泄・睡眠・歯磨き・食事・母乳・ミルク・しつけ 他)	3.44	3.9	-1.27		
子どもの教育・習い事(英語・水泳・リトミック他)	2.4	3	-1.74	**	
お母さん・お父さんの健康(身体の不調・メンタル・妊娠他)	3.2	3.1	0.23		
復職活動	2.36	3	-1.8	**	

表7 子育て情報収集の困難さ

子育て情報の収集頻度	n = 25		n = 10		** p < 0.05
	妊婦	0歳児の母親	t		
どのように探す(聞く)のかわからない	3.12	3.5	-1.02		
内容が専門すぎる	2.8	3	-0.64		
情報の信頼性が低い	2.76	3.5	-2.37		
地域のことが良くわからない	3.08	3.58	-1.4		
情報が多すぎる	3.52	4.08	-1.76	**	
自分がどれに当てはまるのかわからない	3.2	3.5	-0.88		
お金がかかる	3.08	3.17	-0.25		
最新の情報が得られない	3.08	3	0.26		

の教育・習い事（英語・水泳・リトミック他）」（ $t(35)=-1.74, p<.05$ ）「復職活動」（ $t(35)=-1.8, p<.05$ ）については、妊婦に比べ0歳児の母親の平均値が高く、その差は有意であった。その他の不足感については有意な差はなかった。

6) 子育て情報収集の困難さ（表7）

妊婦と0歳児の母親が。子育て情報収集の困難さの平均値について t 検定を行った結果、「情報が多すぎる」（ $t(35)=-1.76, p<.05$ ）については、妊婦に比べ0歳児の母親の平均値が高く、その差は有意であった。その他の頻度については有意な差はなかった。

V. 考察

妊婦と0歳児の母親の子育て情報のニーズを比較することで違いが明らかになった。

1. 場所別の子育て情報の入手頻度

妊婦と比べると、0歳児の母親は子育て情報の入手場所として、「友人・近隣・職場の人・子育てサークルの仲間」、「子育て支援センター職員・コーディネーター・あそびの広場スタッフ」、「病院の医師・助産師・看護師、保健センター」、「地域子育て情報誌」が多い。日常的に母親と子どもが一緒に利用する場所の職員に、子育て情報について相談する回数が増えていると考えられる。また、育児の場の広がりによる地域における子育てに関する情報を多く入手している。一方で、妊婦は親子で利用する場での情報収集は難しいと考えられる。しかし、妊婦が地域の子育て支援サービスの職員とつながることは、その後の継続した支援のきっかけになると思われる。また、日常的に子ども見る機会の少ない

妊婦にとって、実際の子どもと母親の様子を見ることは育児のイメージを形成するためには貴重な経験となると考えられる。そのため、子育て支援センターは、妊婦であっても利用しやすい事業内容の工夫が課題と考えられる。

2. 子育て情報収集の頻度

妊婦と比べると、0歳児の母親は子育て情報の収集頻度として、「子どもの病気・病院情報・予防接種」、「子どもの発達・成長」、「保育園・幼稚園・認定こども園」、「地域子育て支援サービス」、「子ども連れの場合（公園・イベント・レストラン他）」、「子どもの生活（排泄・睡眠・歯磨き・食事・母乳・ミルク・しつけ 他）」が多い。0歳児の母親は、子どもの成長に伴い日々生じる疑問や不安を自ら解決するために多くの情報を収集していると考えられる。一方で妊婦は、まだ実際に育児を経験していないことで情報の必要性は低く情報収集の頻度は0歳児の母親に比べると多くはなっていないと考える。しかし、出産直後から母親の子育ては始まり多忙な時間を過ごしており、様々な子育て情報を収集することは育児負担を増強させる要因になっているとも考えられる。そのため、例えば「赤ちゃんの抱っこの方法」、「絵本の選び方」など育児中の母親にとって収集頻度の高い子育て情報を、事前に想定し妊婦に提供をしていくことにより母親の育児負担の軽減を図ることは可能であるとも考える。

3. 子育て情報収集の目的

子育て情報収集の目的としては、妊婦も0歳児の母親も概ね同様の傾向にあった。実際に育児を経験していない妊婦にとっても、「悩みを解決する」ために情報を収集する育

児行為が明らかになった。

4. 現在の子育て情報の満足度

現在の子育て情報の満足感について、妊婦は約6割、0歳児の母親は3割が「よくわからない」と回答している。妊婦は、育児を体験していないため何が必要な情報かの選択は難しく、曖昧な結果になったと考えられる。一方で、0歳児の母親は育児情報の満足感について明らかに判断しており関心の高さがうかがわれる。妊婦には、出産後の育児で必要になると考えられる情報の選択と、考えるために育児を想像できるような情報の提供方法の検討が必要であると考ええる。

5. 不足していると感じる子育て情報

妊婦と比べると0歳児の母親は子育て情報の不足について、「子どもの病気・病院情報・予防接種」、「地域子育て支援サービス（子育て支援センター・子育てサークル他）」、「子どもの教育・習い事（英語・水泳・リトミック他）」、「復職活動」が多い。中野¹⁰⁾の0～1歳の子どもを持つ母親の最も「必要とされる育児情報」と同様の結果となった。これらは、実際に育児をしている母親が不足していると感じている情報であり、妊婦を含めた母親への情報提供を検討する際の選択肢として考えることができる。

6. 子育て情報収集の困難さ

妊婦と比べると0歳児の母親は子育て情報収集の困難さについて、「情報が多すぎる」が多い。支援者が子育て情報を提供するにあたり、母親のニーズを理解したうえで情報の量の検討も必要であると考ええる。

今回の調査により、妊婦と0歳児をもつ母親の子育て情報のニーズの違いがあることが明らかになった。育児が始まることで母親は

多くの子育て情報を必要としており、妊娠から出産後は大きな分岐点であると考ええる。0～1歳の母親は不安感や閉塞感から子育て情報の必要性が高いことを明らかであり¹⁰⁾、本研究も同様の結果となったと考えられる。母親は子育て情報を収集し、子育ての悩みを解決しようとしている育児行動が明らかになった。地域の子育てサービスを利用し職員に子育てについて聞くことで育児支援の広がり形成していた。母親は子育て情報から子どもの日々直面する困り感に対する解決方法を自ら考え行動している。子どもの成長に伴い具体的な子育てに迷いが生じる時期において、自ら子育て情報を収集しようとする行為は、母親の子育ての主体性を発揮する機会となり、親となる成長の表れであると考えられる。妊婦と0歳児の母親のニーズの違いは母親としての成長とも考えられる。

また、妊婦と0歳児の母親の子育て情報量の違いの理由として育児経験の有無が考えられる。妊婦は実際に育児を体験していないため必要な情報の判断が難しい。妊婦の子育て情報のニーズを支援するには、経験していない子育てのイメージ作りと見通しを持った情報量の選択が必要であると考ええる。今井、常盤¹¹⁾は、子育て支援の課題として子育て不安には妊娠から1カ月健診以降も継続した子育て支援の必要性を述べており、妊婦から母親として成長していく準備として子育て情報の提供支援は必要であると考ええる。具体的な支援内容としては、地域の子育て支援センターなどの地域の子育て支援サービスの周知、母親のニーズを理解した子育て情報の提供、サービスを利用している実際の親子との交流により育児のイメージ作りなどが考えられ

た。妊娠から地域における子育て支援の場の「つながり」を作るために、子育てセンターにおける育児情報の提供を支援していくことが重要であると考えます。

VI. 今後の課題

本研究の調査対象は限られた地域で、主に子育て支援センターの利用者である。今後、データ数を増やしながら地域における子育て支援のあり方について継続し検討をすすめた。なお、本研究の一部は第78回日本助産師学会にて発表した。

本論文内容に関連する利益相反事項はない。

受理 2022年8月3日

採択 2022年1月23日

文献

- 1) 上田公代：乳児を持つ母親の育児に対する否定的感情と子育て支援に関する研究，熊本大学医学部保健学科紀要，第3巻，25-35，2007.
- 2) 寺見陽子：Journal of the Faculty of Human Sciences, Kobe Shoin Womens University，第4巻，59-73，2015.
- 3) 中西伸子，牛尾禮子：乳幼児を持つ養育者の「子育て支援」に関する要望，奈良看護紀要，Vol19，33-22，2013.
- 4) 江口愛子，森 未知：子育てネットワーク等子育て支援団体についての情報提供のあり方に関する調査研究，国立女性教育会館研究紀要，Vol17，109-117，2003.
- 5) 厚生労働省：地域子育て支援拠点事業の実施か所数の推移【事業類型別】2021. <https://www.mhlw.go.jp/content/000963075.pdf> 2022年10月15日アクセス
- 6) 総務省：「住民基本台帳人口移動報告 2019年(令和元年)」 <https://www.soumu.go.jp/> 2022年10月15日アクセス
- 7) 佐瀬美恵子：地域子育て支援センターにおける助産師の役割についての一考察，北海道母性衛生学会誌，Vol151, No1, 21 - 24, 2022.
- 8) 國分真佐代，渡辺久美，田中千登世：母親の育児情報の活用に関する研究，聖隷クリストファー大学紀要，No26，53-59，2003.
- 9) 河田承子，高橋薫，山内祐平：母親の情報収集力と育児情報活用に関する研究，日本教育工学会論文誌，37，125-128，2013.
- 10) 中野洋恵：0～1歳の子どもを持つ母親の育児不安と育児情報に関する一考察，国立婦人教育館研究紀要，第3号，61-70，1999.
- 11) 今井充子，常盤洋子：我国の行政による子育て支援の視点と課題に関する文献検討，Kitakanto Med J, 61, 377-386, 2011.

A study on the differences between Pregnant Women,s and Mothers with 0-Year-Old Children,s Needs for Local Child-Rearing Information

Research Purpose: The importance of continuous support from pregnancy to child rearing has been suggested in recent years.As a community child-rearing support center project, information related to child-rearing was provided, and support for pregnancy was sought.Therefore, we compared the needs of mothers' parenting information in the parenting process from pregnancy to child rearing, and conducted a survey with the aim of helping them in the future.I, Method [Targeted Person] Child Care Support Center Users, Pregnant Women [Survey Method] Distribution of unregistered self-written questionnaires. Out of 349 results and considerations, 66 cases (effective response rate was 19%).

Keyword: Community Child Care Support Center Child , Care Practice Report